

## 実践例「学習指導の深化・充実」

### 「課題4 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善と充実」

#### I 小平町立鬼鹿小学校【留萌管内】

#### II 研究の概要

##### 1 研究主題・副主題

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」

副主題

～全ての教科における学習スタイルの確立をとおして～

##### 2 目指す子ども像

- 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けた子ども
- 既習事項で身に付けた知識・技能を活用して、主体的に考えを広めたり、深めたりすることができる子ども

##### 3 研究の内容

- ①基礎的・基本的な知識・技能を身に付けた子どもを育てるために、様々な手立てで、繰り返し問題に取り組ませる。
- ②主体的に考えを広めたり深めたりすることができる子どもを育てるために、どの教科でも活用できる学習スタイルを確立する。

##### 4 研究の視点

###### 〈視点1〉

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための工夫
  - ①確実な定着を図る練習問題の位置づけ
  - ②フラッシュカードの活用
  - ③ICT 機器の活用
  - ④ノート指導の充実
  - ⑤朝学習の取組
  - ⑥家庭学習の取組（定期テスト）

###### 〈視点2〉


- 学習スタイルを確立するための工夫
  - ①学習活動の細分化
  - ②主体的・協働的な学びを目指したガイド学習の取組
  - ③吹き出し法の活用
  - ④振り返り活動の位置付け

### Ⅲ 実践例

#### 1 フラッシュカードの活用

短時間で前時の振り返りを行えること、また、同じような問題を繰り返し出題させることにより、反復練習することができ、基礎的な技能の定着につながった。また、高学年になると、児童同士で取り組むこともでき、複式の授業の中で、このフラッシュカードはとても有効に活用することができた。

また、道徳科では他人のことを考えることが苦手な子にとって、短時間でいろいろな考えを聞き、イメージをもちやすくする手立てや、想像することが苦手な子のためのトレーニングとしても活用している。

Q.1467年に起こった守護大名どうしの対立を何という？	おうにん らん A.応仁の乱	たねがしま Q.1543年、種子島に伝わったものは？	 A. 鉄砲
------------------------------	-------------------	-------------------------------	--

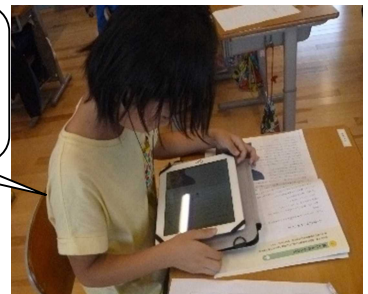
#### 2 ICT 機器の活用

学習した内容について動画で振り返る時間を設けることで、知識の定着を図り、本時の学習についての理解を深めることができた。また、教員の説明や児童同士の説明の時に実物投影機を使用することで、スムーズに作業に入れたり、集団での学び合いを深めたりすることができるようになった。さらに、デジタル教科書の朗読機能を活用することによって、教材の内容の理解を深める手助けになった。



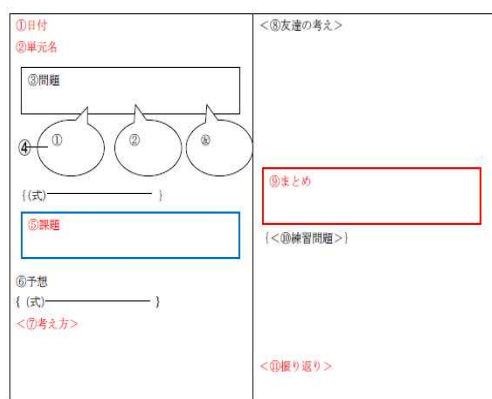
動画で本時の学習内容を振り返っている。

ipad を使い、集中して本文を聞いている。



#### 3 ノート指導の充実

本校では学年に応じてノート指導の基本を提示している。全校でノートの書き方を統一したことで、いつでも、誰でも同じように学習が進むため、流れが分かりやすくなり、子どもたちが見通しをもって、学習に取り組むことができるようになってきた。また、自分の考えや友達の考えなどがわかるノート作りをすることで、間接指導の際に児童が考えていたことなどがノートに残り、思考の変容を見取ったり、評価に生かすこともできる。教科によってノートづくりが少し変わってくるので、どの教科にも確実に書くものと教科によって付け足すものに分けてノート指導をしてきた。汎用性の高いワークシートも活用することで、子どもたちが迷うことなくどの教科でも同じ流れで学習を進められるような取り組みも行った。書いたワークシートは、ノート同様ポートフォリオ評価として活用している。

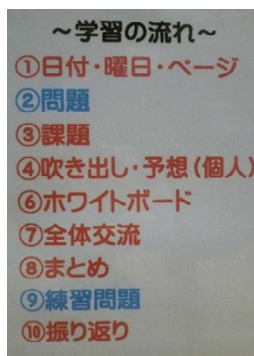
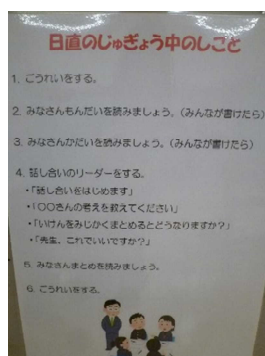


汎用性の高いワークシートも使用している。

#### 4 主体的・協働的な学びを目指したガイド学習の取組

昨年度までの研究から、ガイド学習を取り入れることで、わたりの際でも滞りなく学習が進められるとともに、児童が主体的に授業づくりを行うことができるようになってきた。また、ガイドを中心に課題を設定したり、まとめを考えたりすることを通して、協働して授業を作り上げていこうという態度が高まったことも成果の一つである。

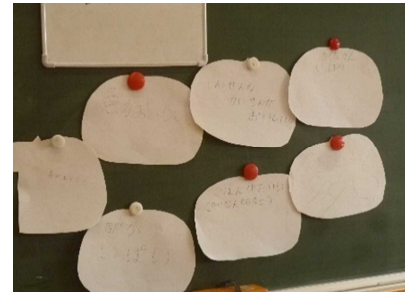
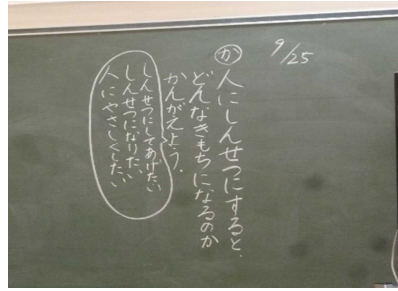
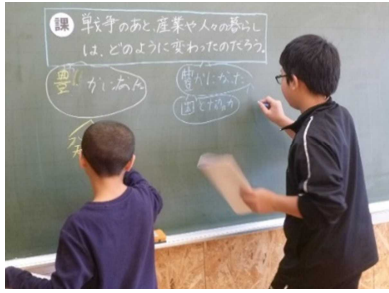
課題として、ガイド学習を進めるにはガイドの力量が重要になるため、訓練を要することや、児童が発表しただけでは、対話的な学びにはならず、人数の少なさゆえ話し合いが深まらないことがあげられる。今年度は、ガイドを中心に、ホワイトボードなどを活用しながら似ている意見をグルーピングしたり、新たな意見を追加しながら話し合ったりすることで、深まりのある話し合いができてきたと感じている。また、低学年は課題やまとめを読む前の声かけをするなど、学年に応じてガイドの内容を変えることで、学年が上がった際に子どもたちが抵抗なくガイド学習に取り組むことができるようになってきた。



#### 5 吹き出し法の活用

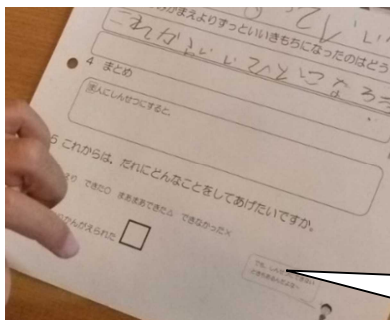
吹き出し法とは、思ったこと、わかっていること、わからないこと、解くための方法、予想など、問題を読んで感じたことを自由に吹き出しに書いていくことである。これを全体で交流することで、問いの共有や課題設定につながっていく。この吹き出し法を用いることで、自力解決する際の手立てとなり、より主体的に考えることができるようになった。また、見通しをもって学習を進めたり、多様な考えを聞いたりすることで、視野を広げて学習に取り組んだりすることができるようになってきた。

学年に応じて吹き出しの書き方を変えることで、その学年にあったスタイルで吹き出しを活用している。



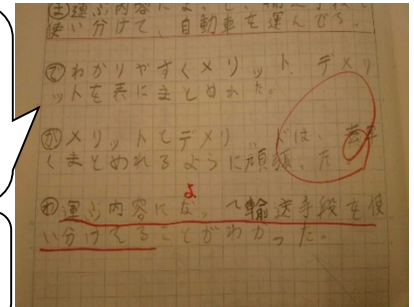
## 6 振り返り活動の位置づけ

本時の内容を振り返ることで、自分がどこまで理解したかを把握することができ、次時の意欲付けをしたり、課題を明確にしたりすることができた。学年に応じて、低学年は記号で、中・高学年はより具体的にできたこと、わかったこと、がんばったことなど考えや思いを書くように指導してきた。



中・高学年は、できたこと・わかったこと・頑張ったことなどの項目に沿って記述で振り返りをしている。

記述が難しい低学年は、記号(◎○△)で振り返りをしている。



## IV 成果と課題

### 1 成果

- ① フラッシュカードの活用で、短時間でスムーズに前時の内容を確認することができた。
- ② ICT を取り入れることで、学習内容の理解を深めたり、集中力を高めたりすることができた。より効果的な使い方については、模索中。
- ③ ノートの書き方を統一することで、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができるようになってきた。同時に、汎用のワークシートも見通しをもたせる1つの手段として活用することができた。
- ④ 吹き出し法を活用することで、自分の考えや本時の課題を明確にすることができた。より学びのつながりが出るように、吹き出しを書いたままにせず、話し合いやまとめのときに関連付けるようにしている。
- ⑤ ガイド学習を継続して行うことで、学年に応じて主体的に学習を進められるようになってきた。

### 2 課題

- ① ICT 機器の活用については、目的によって使い分けるなど、教師側が意図をもって活用できるようさらに深めていく必要がある。
- ② 吹き出し法や振り返りでは、より学びを深めるために、何を書かせるのか焦点化したり、項目を立てて取り組ませる必要がある。
- ③ ガイド学習における対話の深まりはまだまだ足りないと感じるので、教師からの声かけもしていきながら、子どもたち同士で学び合える場をつくっていく必要がある。